

⑤日本分類

94 A 731
94 A 43

①日本国特許庁

公開実用新案公報

庁内整理番号 5656-54
6577-54

①実開昭50-3394

④公開 昭50(1975)・1.14

審査請求 有 (全3頁)

⑤指圧用ポータブルベッド

②実 願 昭48-52745

②出 願 昭48(1973)5月7日

⑦考 案 者 出願人に同じ

⑦出 願 人 須藤清次

東京都大田区田園調布本町16の
3

⑦代 理 人 弁理士 上村正二

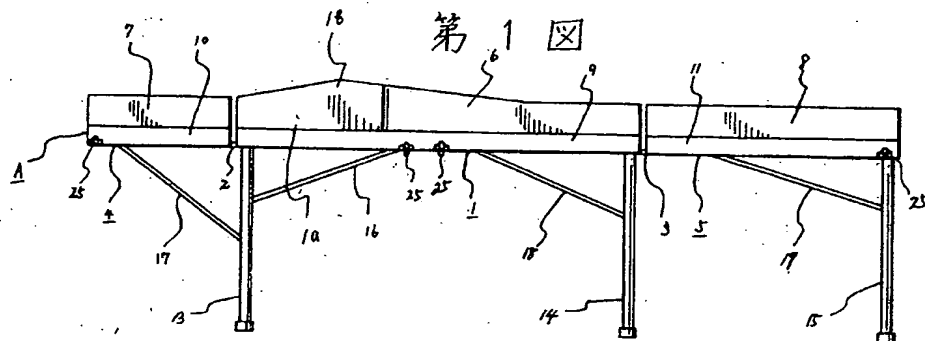
⑤実用新案登録請求の範囲

中央台部材の前後に、頭部支承用台部材と、肢部支承用台部材とを、それぞれ腹合せに折りたたみ携帯自在となるようヒンジ結合して形成したベッド本体の、中央台部材における頭部支承用台部

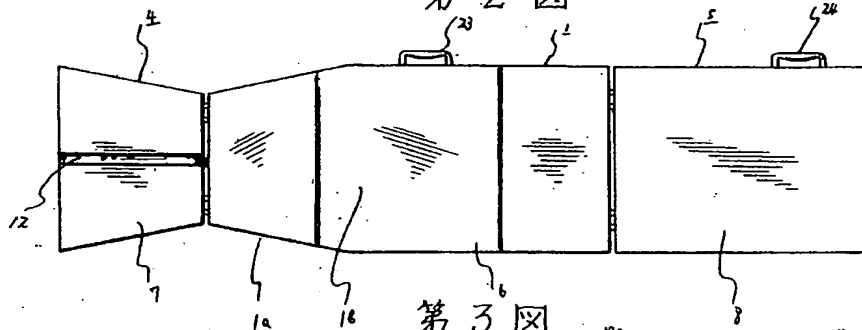
材寄りの部分を、幅員漸減部に形成するとともに該部の上面に、前後方向の傾斜をもつ隆起部を設ける一方、頭部支承用台部材には俯臥顔面下に通気自在の空間を形成するようにした所定幅の溝部を設けてなる指圧用ポータブルベッド。

図面の簡単な説明

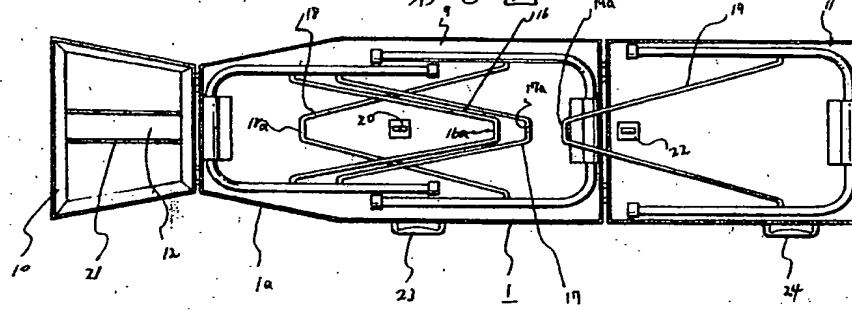
第1図は本考案ベッドの一実施例を示す側面図、第2図は同、平面図、第3図は同、底面図、第4図は枕の一例を示す斜視図、第5図は折りたたんでトランク状となつたときの平面図、第6図は第5図VI矢視図、第7図は同、VII矢視図である。A……ベッド本体、1……中央台部材、1a……幅員漸減部、1b……隆起部、2, 3……ヒンジ、4……頭部支承用台部材、5……肢部支承用台部材、12……溝部。



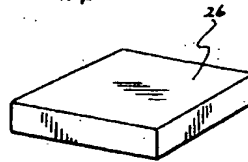
第2図



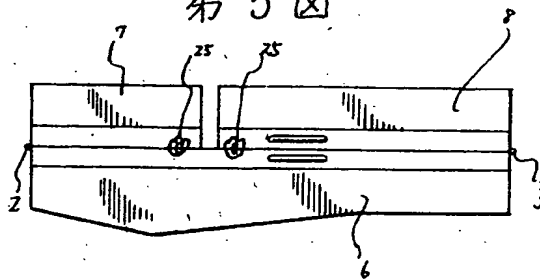
第3図



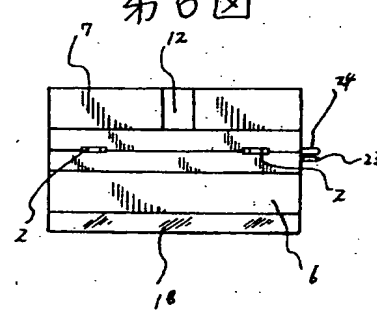
第4図



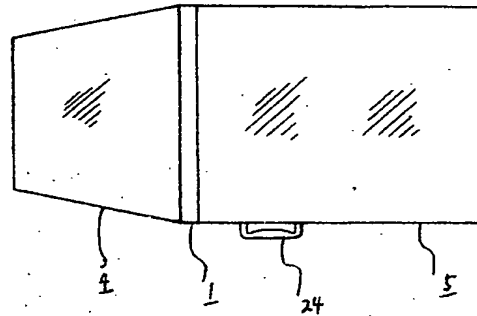
第5図



第6図



第7図



補正 昭48.9.19

考案の名称を次のように補正する。

⑤④カイロブラクテックポータブルベッド

実用新案登録請求の範囲を次のように補正する。

⑤⑦実用新案登録請求の範囲

中央台部材の前後に、頭部支承用台部材と、肢部支承用台部材とを、それぞれ腹合せに折りたたみ携帯自在となるようヒンジ結合して形成したベ

ッド本体の、中央台部材における頭部支承用台部材寄りの部分を、幅員漸減部に形成するとともに、該部の上面に、前後方向の傾斜をもつ隆起部を設ける一方、頭部支承用台部材には俯臥顔面下に通気自在の空間を形成するようにした所定幅の溝部を設けてなるカイロブラクテックポータブルベッド。



(1,500円)

実用新案登録願

昭和48年⁵月7日 提出

特許庁長官 三 宅 幸 夫 殿

1. 考案の名称 指圧用ポータブルベッド

2. 考 案 者

住 所
氏 名 実用新案登録出願人に同じ

3. 実用新案登録出願人

住 所 東京都大田区田園調布本町16番3号
氏 名 須 藤 清 次

4. 代 理 人

住 所 東京都中央区銀座3-9-4 文成ビル4階
氏 名 (6979) 弁護士 上 村 正 二

5. 添付書類の目録

(1) 明細書	1	通
(2) 図面	1	通
(3) 願書副本	1	通
(4) 委任状	1	通
(5) 特許審判官署名	1	通

明 細 書

考案の名称 指圧用ポータブルベッド

実用新案登録請求の範囲

中央台部材の前後に、頭部支承用台部材と、肢部支承用台部材とを、それぞれ腹合せに折りたたみ携帯自在となるようヒンジ結合して形成したベッド本体の、中央台部材における頭部支承用台部材寄りの部分を、幅員漸減部に形成するとともに、該部の上面に、前後方向の傾斜をもつ隆起部を設ける一方、頭部支承用台部材には仰臥顔面下に通気自在の空間を形成するようにした所定端の側部を設けてなる指圧用ポータブルベッド。

考案の詳細な説明

本考案は指圧を患者に施す際に使用する折りたたみ携帯自在のベッドに関する。

患者に指圧を施す場合、通常のベッドでは治療効果を高めることができない。

このため弾力変形しにくい表面構造とした専用のベッドの使用が望まれるが、往診時や入院患者の病室にての指圧時に、大きなベッドを患者のもとまで運ぶことは不可能であり、止むを得ず通常のベッド上に、その都度何等かの当てものなどを利用し、間に合わせていた。

本考案はこれに鑑み、極めて簡単に患者のもとへ運ぶことができ、さらに指圧効果を著しく高めることができるようにした指圧用ポータブルベッドを提供するものである。

つきに図面を参照して本考案の実施例を説明する。

ベッド本体Aは患者のボディ部分をのせる中央台部材1と、この台部材の前後端に、腹合せ折りたたみ自在に、ヒンジ2、3で結合する頭部支承用台部材4と股部支承用台部材5とを有し、これら各台部材は、硬質ウレタン等の芯材の表面を、ビニールレザー等で被覆した所定厚のシート部材6、7、8と、これら各シート部材を固定する金属製台枠9、10、11とでそれぞれ形成されている。

中央台部材 1 は頭部支承用台部材 4 塞りの部分が、幅員漸減部 1 a に形成され、これに連結する頭部支承用台部材 4 は、折りたたんだとき、上記幅員漸減部 1 a 部分の台枠 9 の部分に、台枠 10 が合致するよう梯形状に形成されている。

幅員漸減部 1 a の上面には、前後方向の傾斜面をもつ隆起部 1 b が設けられている。

この隆起部 1 b は俯臥、仰臥した患者の胸、背部が当接する部分となる。

頭部支承用台部材 4 には台枠 10 に固定するシート部材 7 を左右 2 片に分割して形成した離部 12 が設けられている。

離部 12 は、本実施例では上下および前後に貫通するが、非貫通凹部であつてもよく、俯臥した患者が顔面を真下に回けても、鼻がつかえず、また自由に呼吸できるような通気自在の空間であればよい。

一方中央台部材 1 の下面前後位置には折りたたみ自在の脚 13、14 が取付けられており、肘部支承用台部材 5 の後端にも同着となる脚 15 が折りたた

み自在に取付けられている。

脚 13、14、15 にはそれぞれステイ 16、17、18、19 が折りたたみ回動自在に取付けられている。

これらステイのうちの脚 13 に取付けられたステイ 16、17 のうち、一方 16 はその自由端 16 a を中央台部材 1 の下面ほぼ中央に設けてある掛金具 20 に掛合し、他方 17 はその自由端 17 a を頭部支承用台部材 4 下面の前後方向複数段とした掛金具 21 に掛合することができるものであり、これらステイによつて脚 13 は直立に保持され、同時に掛金具 2 のいずれかの段にステイ 17 の自由端を掛合させることによつて、頭部支承用台部材 4 は前傾角度が選択的に変えられる。

脚 14、15 に取付けられたステイ 18、19 は、それぞれ掛金具 20 と、頭部支承用台部材 5 下面の掛金具 22 に、自由端 18 a、19 a を掛合することによつて脚 14、15 を直立に保持する。

なお図中 23、24 は台枠 9、11 に取付けた取手であつて本装置ベッドを折りたたんだとき、左右隣在して一つの手でいつしよに把持できるようにし

たものである。25は錠金具、26は材であつて、シート部材と同材質とする。

前記のような構成からなる本考案は、ヒンジ2、3によつて結合されている中央台部材1と四肢部材4、5とを展開し、脚13、14、15を立てれば、指圧に適したベッドとして任意の場所で使用することが可能となる。

使用に際して職員漸減部1aは医師が患者に接近するのに都合もよいが、患者が体臥し、中央台部材1上にボディを寝させたとき邪魔になる面腕を下下するのに極めて都合がよい。

同様に隆起部1bは患者のボディを緊張させて指圧効果を高めるのに役立つ。

さらに後頭部、頸部等の指圧に際し、頭面を身体下に向けても、鼻部12に鼻、口を臨ませていれば苦痛も生じないし、息がつまることもない。

移動、搬送時には、脚13、14、15を折りたたみ中央台部材1の下面に頭部支承用台部材4および四肢部材5の下面が対向するようベッド本体Aを折りたたみ、錠金具25をかければ、トラ

ンク状となり、搬行自在となる。

必要に応じて使用する枕及び折りたたんだベッド本体 A 内に格納しておけばよい。

また、ベッド本体 A に取付ける脚 13、14、15 は、和室で使用する場合、畳に喰い込まないように下端に、接地面積を大きくするための堅盤などを嵌めるようにしておけばよく、和室専用であれば、脚自体装着を省略してもよい。

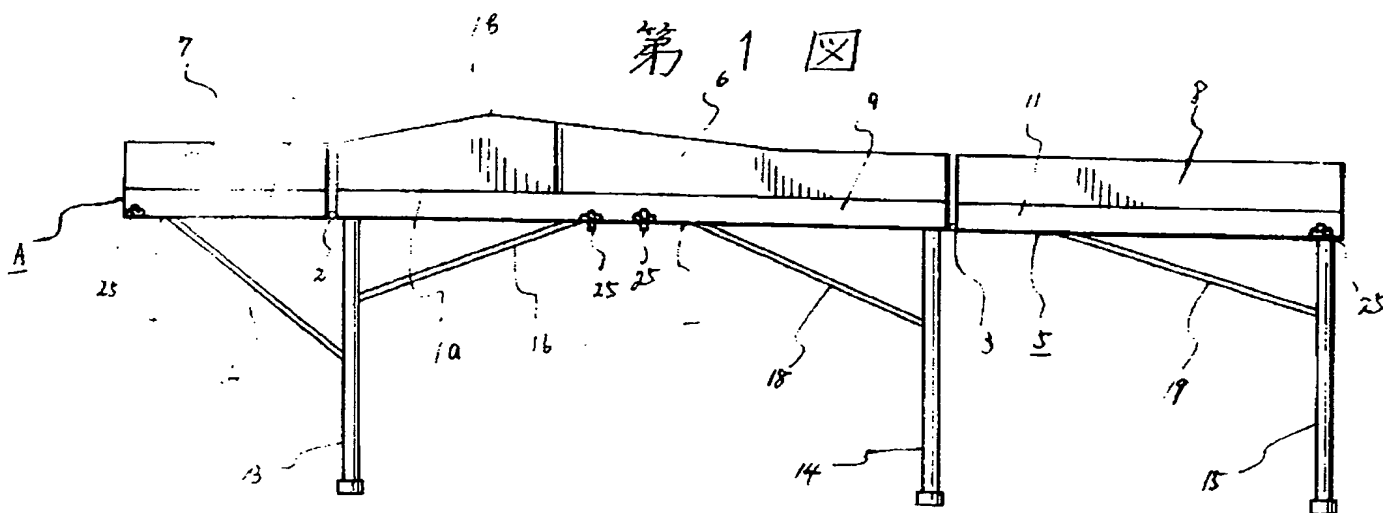
したがって、本考案指圧用ポータブルベッドは、搬行が容易で、任意の場所に移動し、確実な指圧治療を行うことが可能となる優れた効果を奏するものである。

図面の簡単な説明

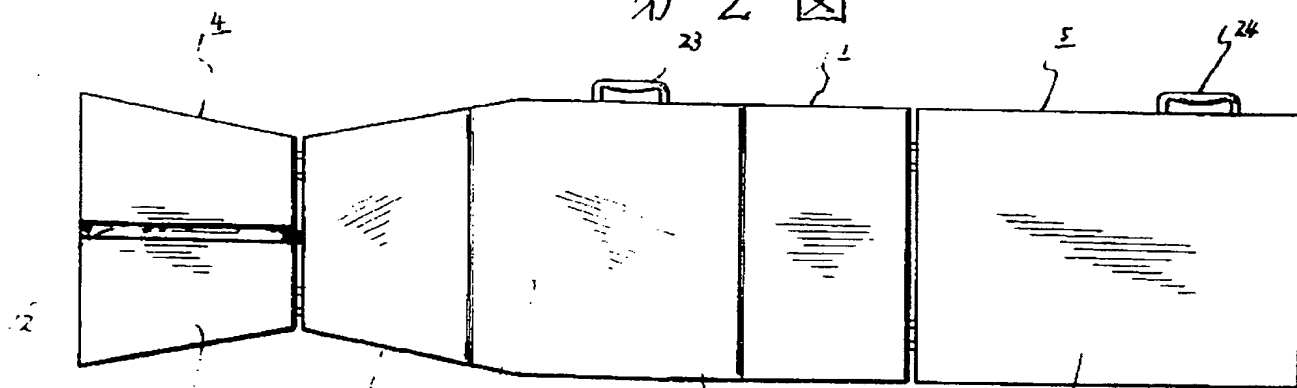
第 1 図は本考案ベッドの一実施例を示す側面図、第 2 図は同、平面図、第 3 図は同、底面図、第 4 図は同の一例を示す斜視図、第 5 図は折りたたんでトランク状となつたときの平面図、第 6 図は同 5 図 VI 矢視図、第 7 図は同、VII 矢視図である。

A … ベッド本体、 1 … 中央台部材、 1 a …
幅員漸減部、 1 b … 隆起部、 2、 3 … ヒンジ
、 4 … 頭部支承用台部材、 5 … 腰部支承用台
部材、 12 … 脚部。

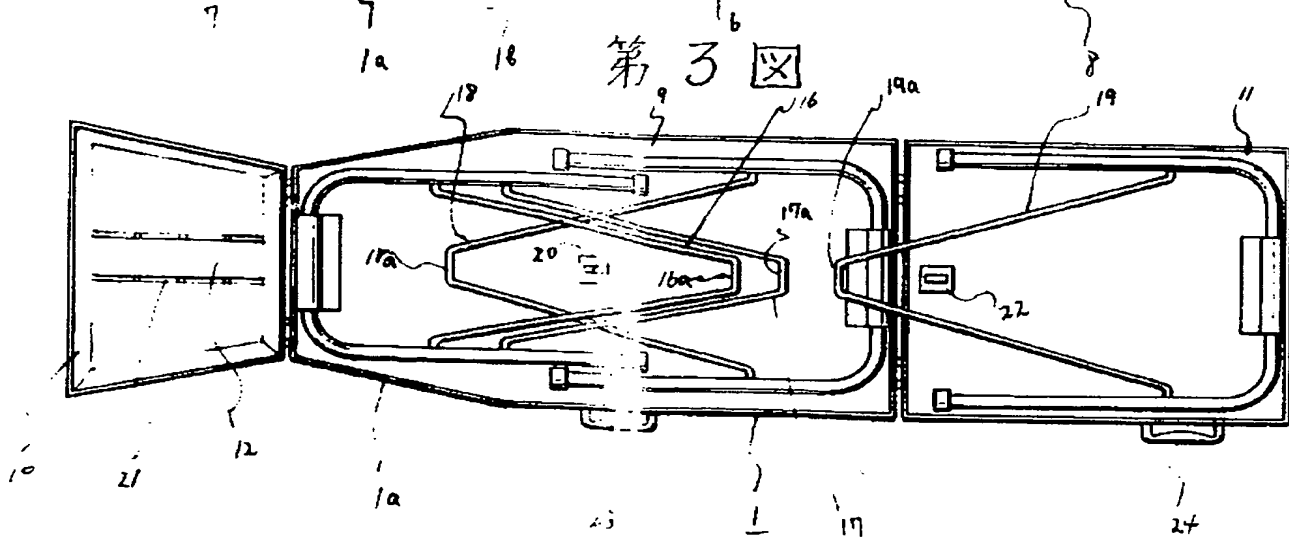
第 1 図



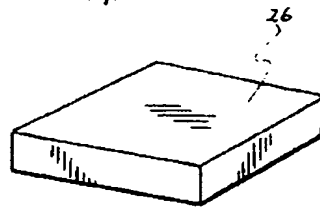
第 2 図



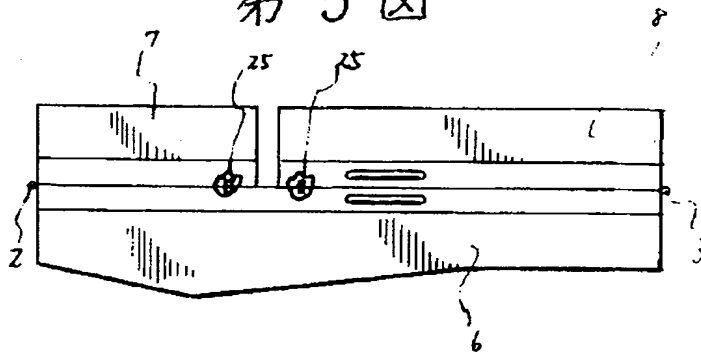
第 3 図



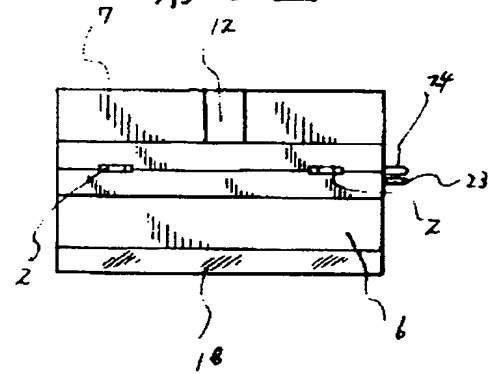
第4図



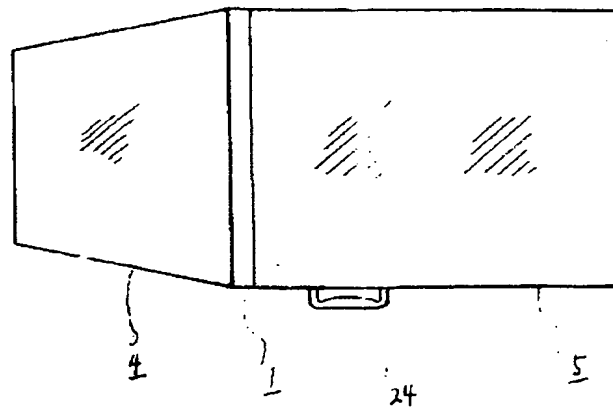
第5図



第6図



第7図



代理人

弁理工 上 村 正 二

手 続 補 正 書

昭和 48 年

9 月 19 日

3字訂正

特 許 庁 奇 藤 英 雄 殿

特許第
号加入

1. 事件の表示

~~昭和 48 年 5 月 7 日 付 実 用 新 案 登 録 願 書 第 52745 号~~

30字削除

2. 考案 の 名 称

カイロプラクテックポータブルベッド

3. 補正をする者

事件との関係 実用新案登録出願人

住 所 東京都大田区田園調布本町 16 番 3 号

氏 名 須 藤 清 次

4. 代 理 人

住 所 東京都中央区銀座 3-9-4 文成ビル 4 階

氏 名 弁理士 (6979) 上 村 正 二

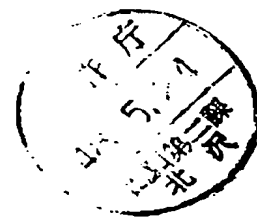
5. 補正命令の日付

6. 補正により増加する発明の数

7. 補 正 の 対 象 願書の考案の名称および明細書

8. 補 正 の 内 容

別紙のとおり



(1) 本願の考案の名称を「カイロブラクテックポータブルベッド」と訂正する。

(2) 本願の明細書中

イ、1頁2行目の「指圧用ポータブルベッド」を「カイロブラクテックポータブルベッド」と訂正する。

~~32行目の「指圧用」を「カイロブラクテック」に訂正する。~~

28字削除

16行目の「指圧」を「カイロブラクテック」に訂正する。

ロ、2頁3行目の「指圧時」を「カイロブラクテックする時」に訂正する。

8行目の「指圧効果」を「カイロブラクテック効果」に訂正する。

ハ、9行目の「指圧用」を「カイロブラクテック」に訂正する。

ヘ、5頁6行目の「指圧」を「カイロブラクテック」に訂正する。

13行目の「指圧」を「カイロブラクテック」に訂正する。

14行目の「指圧」を「カイロブラクテック」に訂正する。

ニ、6頁9行目の「指圧」を「カイロブラクテック」に訂正する。

10,11行目の「指圧」を「カイロブラクテック」に訂正する。

ホ、使用新案登録請和範囲を別紙に訂正する。

実用新案登録請求の範囲

中央台部材の前後に、頭部支承用台部材と、肢部支承用台部材とを、それぞれ複合せし折りたたみ撓曲自在となるようヒンジ結合して形成したベッド本体の、中央台部材における頭部支承用台部材寄りの部分を、幅員漸減部に形成するとともに、該部の上面に、前後方向の傾斜をもつ隆起部を設ける一方、頭部支承用台部材には俯臥顔面下に通気自在の空間を形成するようにした所定幅の溝部を設けてなるカイロブラクティックポータブルベッド。